

海外農林業情報 No. 105

目次

【世界の貿易関係・食料需給】大豆・とうもろこしの需給・価格動向と米中貿易摩擦… 1

【世界の貿易関係・食料需給】大豆・とうもろこしの需給・価格動向と米中貿易摩擦

大豆

米国農務省が12月10日に発表した2019/20年度の8回目の世界および主要国の穀物・大豆に関する需給見通しによれば、世界の大豆の生産量は、ブラジルと中国で史上最高となるものの、米国やカナダ等で減産となること等から、前年度より減少する見通し（対前年度比5.8%減）で、世界の生産量が消費量を下回るため、期末在庫量は前年度を下回る見通し（対前年度比12.2%減）となりました。

このような情勢を受けて、シカゴの大豆先物価格は、9月上旬以降値を上げ、10月半ばに一時9.4ドル/buと、約1年4ヵ月ぶりの高値に達しましたが、その後、収穫の進展やブラジル等南米諸国の豊作見込み等から値を下げ、11月下旬には8ドル/bu台後半で推移していました。

さらに米中貿易摩擦が価格の波乱要因になっています。米中間では、追加関税の応酬が続いてきました。米国が、2018年7～9月にかけて第1～第3弾として2,500億ドル相当分に発動し、今年8月初めには、第4弾の発動を表明しました。これに対し、中国政府が8月下旬に報復措置を発表したことで、米国も対抗措置として関税の上乗せを発表しました。9月1日の米国側第4弾の一部発動（1,100億ドル分）で、追加関税の対象額は中国からの全体の約7割に達し、第4弾のうちの12月15日まで猶予した1,650億米ドル相当分を発動すれば、中国からの輸入のほぼ全額に追加関税がかかることになっていました。一方、中国はこれまで第1～3弾として、米国からの輸入額（約1,500億米ドル）の約7割にあたる1,100億米ドル相当分に報復関税を発動しました。今年8月には、中国政府は、米国の制裁関税第4弾への報復措置として、米国製品などへの関税の上乗せを発表しました。10月に中国が米国産農産品の輸入を拡大する一方、米国が制裁関税の引き上げを見送ることで部分合意し、中国政府は、12月6日、関税を上乗せしていた対象の品目から大豆や豚肉などを除外する手続きを進めていることを明らかにしました。今月15日にアメリカが計画している追加の関税措置の発動を回避するため、歩み寄りの姿勢をみせるねらいもあるとみられました。また中国は、アフリカ豚コレラの影響で、豚肉の輸入が緊要となっており、また、豚飼養農家への影響から大豆（大豆かすを飼料用に利用）も関税を上げられない状況があったものとみられます。この措置は価格上昇要因ですが、大豆の国際価格の上昇は小幅にとどまりました。その背景として、来年1月末に、世界最大の輸出国ブラジル産が出荷時期を迎え、中国は米国産を買うのかという疑念が深まっているとの報道もありました。

そうした中で、12月13日、米中貿易協議が「第1段階」の合意に達しました。①米国が12月15日に予定していた中国に対する追加関税の発動は見送り中国も報復を取り下げる、②米国は発動済みの追加関税のうち15%を課している1,200億ドル相当分は7.5%に

引き下げるが、2,500億ドル相当分は25%のままとする、③米国側説明によれば、中国は米国から農産物などの輸入を今後2年間で2,000億ドル増やし、このうち、農産物は年400億ドルの購入を目指す（ただし、中国側は規模や金額は明らかにせず）、等が内容となっています。この合意を受けて、シカゴ大豆先物は12月13日に9ドル/bu台へ上昇しています。ただ、この合意が実際に達成されるのかどうかは不透明であり、今後も神経質な展開になると思われます。

トウモロコシ

米国農務省の前述需給見通しによれば、世界の生産量は、中国で上方修正されたものの、カナダでの下方修正等による減産から、前年度を下回る見通し（対前年度比1.4%減）で、世界の消費量は前年度より減少して世界の生産量が消費量を下回ることから、期末在庫量は減少する見通し（対前年度比5.8%減）となりました。

シカゴの先物価格は、6月中旬に4ドル/bu台半ばまで大幅に値を上げていましたが、7月下旬以降、米国中西部の作柄改善、9月上旬の米国での良好な天候予測から9月上旬には3ドル/bu台半ばまで値を下げていました。9月の米国農務省需給報告での米国産トウモロコシ生産予測の下方修正、9月末の米国農務省の在庫報告での市場予測を下回った在庫量から値を上げ、10月中旬には4ドル/bu近くで推移したものの、米国での収穫の進展等から値を下げ、最近では3ドル/bu台後半で推移しています。

なお、トウモロコシは、大豆と異なり、米中摩擦からの直接の影響はありません。中国はトウモロコシに関しては基本的に自給政策をとっており、輸入の割合は低くなっています。

<参考リンク>

World Agricultural Supply and Demand Estimates (USDA、12/10付)

<https://www.usda.gov/oce/commodity/wasde/>

米国農務省穀物等需給報告（2019年12月10日発表のポイント）（農林水産省、12/11付）

<http://www.maff.go.jp/j/zyukyu/jki/attach/pdf/index-78.pdf>

United States and China Reach Phase One Trade Agreement (USTR、12/13付)

<https://ustr.gov/about-us/policy-offices/press-office/press-releases/2019/december/united-states-and-china-reach>

米国産大豆、重い上値（日本経済新聞、12/10付）

<https://www.nikkei.com/article/DGKKZO53105620Z01C19A2QM8000/>

米中、火種抱えた休戦 第1段階合意（日本経済新聞、12/15付）

<https://www.nikkei.com/article/DGKKZO53378850U9A211C1MM8000/>

シカゴ大豆先物、続伸 1ヵ月ぶり高値 米中合意を好感（日本経済新聞、12/17付）

（文責：藤岡 典夫）

本情報のメール配信をご希望の方は、件名に『海外農林業情報配信希望』と記入した空（から）メールを下記までお送り下さい。ご意見、ご感想もお待ちしております。E-mailアドレス：deskb@jaicaf.or.jp
メールを送付された方には、確認メールをお送りします。送信後2週間以内に届かない場合は、お手数ですが03-5772-7880（担当：森・西野）までお電話下さいませようお願い申し上げます。なお、メール配信をご希望の方には、本ミニ情報のほか、セミナーのご案内等、当協会からのお知らせが届くことがありますので、併せてご了承下さい。

発行：(公社) 国際農林業協働協会 (JAICAF)

〒107-0052 東京都港区赤坂8丁目10-39 赤坂KSAビル3階